



2021-22 年度  
国際ロータリー会長  
シェカール・メータ

# Weekly Report Niigata



2021～22 年度  
新潟ロータリークラブ会長

石橋 正利



新潟 RC 10月第 2例会 (2021.10.12) (Zoom 例会併催) No.3385

## (1) ロータリーソング「四つのテスト」ピアノ演奏

## (2) 石橋 正利会長挨拶

今例会には、高尾ガバナー、片山ガバナー補佐、浅妻地区幹事が、オンラインでお越し頂いております。後程、高尾ガバナーからは、ご講話を頂きます。

ガバナー月信 10月号が届いております。今月は、「米山月間」ということもあり、この中で、高尾ガバナーは、「沢山の実りを感じる米山奨学事業」という表現をされています。そして、このように記載されておられます。

「ロータリー米山記念奨学事業については、奨学金による経済的な支援だけでなく、日本のロータリー独自の世話クラブとカウンセラー制度によるクラブ例会行事への参加等、カウンセラーとの心の通った支援があります。この素晴らしい米山奨学事業に、ロータリアンの皆様のご理解ご協力を賜ります様お願い申し上げます。」と。私達一人ひとり、ロータリアンとして、米山記念奨学事業への理解を深めてまいりましょう。

では、今から、愛知県で行われているロータリー米山記念奨学会の活動紹介映像をご覧ください。高尾ガバナーが表現された沢山の実りを感じる事例について、この活動紹介映像から、ご理解頂けるかと思えます。

皆さま、ご覧頂いて、いかがだったでしょうか。

奨学生の皆さんが卒業後、学友会に入られ、奉仕の精神に寄り添った生き方をされていることに、正に沢山の実りを感じる事が出来たのではないのでしょうか。

最後に、福井ロータリークラブの米山記念奨学事業をご紹介させていただきます。2014年度福井ロータリークラブ会長を務められた玉木洋さんが、facebookに載せられた2年程前に、ベトナム・ハノイで、元ロータリークラブ米山奨学生(福井大学留学生)だった2組の幸せなカップル達と久々の交流をされた記事です。奨学生だった皆さんと、永いお付き合いをされていることが分かりました。改めて、日本と世界の懸け橋となり、国際平和の創造と維持に貢献する人となる事が期待されると思えます。

新潟ロータリークラブとしても、学友会の皆さまとも交流できる機会を増やして行きたいと思う次第です。

## (3) ビジターの紹介

・木村廉平君(新潟万代 RC)

## (4) オンラインによる高尾ガバナー公式訪問

### ご参加者者

・ガバナー 高尾 茂典君(新潟中央 RC)

・ガバナー補佐 片山 政博君(新潟東 RC)

・地区幹事 浅妻 信君(新潟中央 RC)

## (5) 各種ご寄付の発表

### 米山奨学会寄付発表(織戸潔副委員長)

徳永 昭輝君 佐藤 紳一君

石本隆太郎君

### 青少年育成基金寄付発表(小飯田 澄雄委員長)

本間 彊君 石橋 正利君

小飯田 澄雄君

## (6) ニコニコボックス紹介(武田 眞二委員)

・高橋 秀松君 10月10日、季節外れの猛暑の中、新潟シティマラソンに佐藤紳一さん東海幸一さんと共に参加してきました。秋の一日気持ちの良い大汗を流しました。その後の昼12時から反省会では、走って居る時間の倍の長さで盛り上がり、飲んで食べて、せっかく落ちた体重も、かえって増えてしまいました。

・苅部 雄一君 誕生祝いにワインを頂きました。美味しく頂きました。

・本間 彊君 お花を頂きありがとうございました、と妻が申しておりました。

・福地 利明君 特に理由はないですがニコニコします。

## (7) 幹事報告(内山 博之)

・例会終了後第二回会長指名委員会を4階「柳の間」で開催致します。

(8) 「高尾茂典ガバナーご講話（オンライン）」

(9) 10月12日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
86	85	66	77.65

**Zoom参加者10名**

10月 米山月間

かつての米山奨学生から10年ほど前、新潟RC会員に届いた手紙を掲載します

**宝 鉄梅さん（2003～2005年度）  
「思い出の新潟」**

新潟ロータリークラブの皆さまへ：

こんにちは、大変ご無沙汰しております、元米山奨学生の宝鉄梅です。皆さんはお元気でお過ごしでしょうか。

私は1999年4月から2005年10月まで新潟大学に留学していました。学業を終えた後、帰国し、大学で教鞭をとり、結婚し、二児の母となり、幸せで充実した日々を送っています。

新潟を去り、帰国して5年になるが、新潟への思いには変わりがありません。たまには、新潟の米、新潟の水、乃至は新潟の空気が恋しくてたまらなくなることがあります。

私の人生の中で、新潟は私の第二の故郷であり、新潟で過ごした日々は私の大切な思い出になりました。新潟での留学によって私はさらなる成長と発展を遂げ、新潟の人々との触れ合いを通して、私は日本人に対する理解を深めることができました。新潟ロータリークラブの皆様との出会いによって、何よりも人への思いやり、困っている人を助けるべきことを分かりました。私のカウンセラーであった故堀井先生が私におっしゃってくださった一言を私は未だに心に銘記しております。ある日、クラブ活動に参加した後、イタリア軒で先生と一緒に食事し、食事代を払おうとしましたが、先生は「異国で生活し、勉強するのが大変でしょう、私もアメリカで留学していた時はほかの人に助けってもらったことがたくさんありますよ、今度、宝さんが就職し、ゆとりができれば、困っている人を見たら、助けてあげなさい」と言ってくださいました。

なぜか、先生が言ってくださった一言が私の心に大きなインパクトを与えてくださいました。帰国後、私は一時期、多くの中国人と同じく、私利私欲に流されそうになっていたある日、高熱を出している子供を抱っこして、持ち金を全部使ってしまっただけのお金もなく子供に少し食べ物くれますかという、ある田舎の夫婦と道であって声掛けられました。その時、ふと、先生が言ってくださったことを思い出し、あの夫婦に食事代をあげました。不思議なことに、その瞬間非常に幸せな気分になりました。それから、道で物乞いをしている人を見ると、少しだけでもあげるようにしています。たまには、主人に「中国では物乞いを自分の職業にして、私たちよりもいい生活をしているそうだよ」と言われても、私の気持ちとして、できるだけ、少しでもあげるようにしています。

故堀井先生に大変お世話になり、もうお目にかかることができないことが非常に残念に思いますが、先生はいつも私の心の中にいると思います。カウンセラーの先生にお世話になっただけではなく、他のロータリアンからも卒業するまで、家に招待してくれたり、会社内を見学させたり、家族ぐるみのイベントに招待して下さったりして、いろいろな形で手助けをいただいたことをはっきりと覚えています。感謝の一言では絶対足りないと思います。ですから、新潟ロータリークラブで覚えたこと、新潟に留学して感じたことを今後も引き続き後輩達に、学生達に伝えていきたいです。そして、何よりもロータリーで勉強した奉仕の精神を今後も自分の行動に反映していきたいです。

**10月19日の例会予定**

・Think globally, Act locally.  
（「地球規模で考え、地域で行動する」）

2011-13年度米山奨学生 張 文婷氏

・会員スピーチ

“あまねく” 役立つ公共メディアに  
～時流とともに進化・深化・真価～

日本放送協会新潟放送局

局長 矢部 典男君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>